

香流川の探訪（第二回）

実施日：2004年 9月16日 10時30分～17時00分

探訪地：香流川と矢田川合流点より上流4Km地点まで
及び中心地「中島橋」付近の住居訪問

訪問先：名東区役所 広報課⇒地区に詳しい方紹介
月心寺住職 岩田三蔵氏⇒地区の古い方紹介
高木 哲氏 85歳 この地に生まれ育った

■ 聞き取りした事

1. 名東区役所 広報課 梅村主査⇒月心寺紹介
 - ・川の環境整備は、名古屋市が中心であり区としては、特に目立った活動はしていない。川のクリーン活動が市主催で実施、区はPR。
本の紹介「香流川物語」・「猪高村村誌」
まちづくり推進部地域振興課紹介⇒井尻主管不在
2. 月心寺 1662年創建 23代住職 岩田三蔵氏（65歳？）
 - ・かつて、香流川は月心寺の下まで大きく蛇行していたが、戦前に現状の直線に改修された。（香流川まで300m）
改修前、後それぞれの航空写真を借用する。
 - ・名古屋市のベッドタウンとして、昭和38年より区画整理開始
その頃まで天井川であったこと、年末には川べりで障子を洗っていた。
 - ・このあたりのことでは、裏にある「高木酒店」が香流川の水を使って酒造りをしていたと聞いている。
よく知っている長老は、高木哲（さとし）さんを訪ねる事。
 - ・あらためての訪問了解。
3. 高木 哲氏 大正8年生まれ 85歳
 - ・香流川について聞きたいと問い掛けた時の第一声は、「(川は)今は厄介もんになってしまったな。」であった。
 - ・このあたりは、戦前は貧しい農家が多くほとんど瓦葺であった。
高木家の建物は、昭和27年築でこの地区では最初の瓦葺である
 - ・蛇行河川の改修は、昭和6年～12年実施しまっすぐな川となる。
同時に田んぼと堤が4～5mあった天井河川が、3m程度まで河床を

- 深く掘り込んだ。(上流は土堀場等でハゲ山で、土砂流出が多くあった。)
- ・改修前の「月心寺」付近は、岩場の深みになっていて、夏は子供たちの飛び込み場あった。
 - ・川遊びは盛んであった。アユ以外ほとんどの川魚がとれ、貴重なタンパク源であった。
 - ・子供の頃は、川の両側を川北、川南と呼び、川をはさんで子供同士が石投げ合戦をやった。⇒地区対抗の野球選手を育てる。
 - ・昭和38年の区画整理前後に再び大改修があって、コンクリート堤の始まりとなった。同時に、天井河川も無くなった。
 - ・昭和40年ごろまで、親父が河川敷で牛を放牧していた。河川敷には、草が茂っていた。(20頭程度)
 - ・川の50m位先に「高安商店」という雑貨屋があるが、もともと「米屋」であり、そのあたりに水車があつて造り酒屋(高木酒店)の原料米の精米をしていた。又、一般の農家も精米を頼んだ。その料金は、玄米で支払っていた。
 - ・自分以外に地元に物知りは、月心寺に近所に「足立保蔵」さんが居る。この方は、文化的活動をされていたから詳しい話が聞けるかもしれない

■次回の聞き取り

1. 名東区役所 まちづくり推進部地域振興課 井尻主管
 - ・歴史的に香流川を中心にした町づくりはどうであったか。
 - ・今、取組まれている事は
 - ・今後の計画、予定は
2. 高木酒店
 - ・造り酒屋の歴史と写真、資料の閲覧
 - ・水の質はどうであったか
 - ・商品はどのあたりまで売られていたか
3. 足立保蔵
 - ・香流川の思い出話し——人々のかかわり
 - ・水に関わるさまざまな話題——人々のかかわり
4. 月心寺住職、高木哲氏の再聞き取り
 - ・香流川とあらゆる水と住民とに関わる思い出話し。

